



コーヒー生産地から

エクアドル

インタグコーヒー生産者協会 AACRI
女性たちによる総会に参加して

（報告…エクアドル駐在スタッフ 和田彩子）

インタグに移り住んで来た人々の歴史

コーヒーを生産するインタグ地方は、標高3000m級のトイサン山脈に沿う、インタグ谷と言われる傾斜のきつい山の合間にある地域だ。インタグコーヒー生産者協会 AACRIの生産者の皆さんの住居は、この渓谷の標高700m、2000mに点在する。20年ほど前、私がこの地に通い始めた頃は、電気も電話もなく、水道もほとんど通っていなかった。舗装された道路もなく、ガタガタクネクネの道が延々と続き、ちよっと雨が降ればすぐに土砂崩れで通行止めになり、いつ開通するかわからないため、よく右往左往していた。それはそう昔のことではない。

インタグには古代ユンボ族という民族がいたが、その文化は古墳や出土した土器でしか見ることはできない。現在の住民のほとんどはエクアドルの他の地域やコロンビアからの移民の3世、4世が多い。先住民民族キチュア族の人々もいるが、

元々は他の地域からやってきた人たちで、この地の「先住」民というわけではない。今の住民の方々のひいおじいちゃんやおじいちゃんたちは何ヶ月もかけて馬や徒歩でここまで辿り着いたのだという。果てしない道なき道を進みながら、人々は何を思い、何を頼りにこの森深い渓谷まで辿り着いたのだろう。

この森と川しかない場所を開拓してきた人たちの家族間の絆は強い。男たちはのこぎりやマチェテ（山刀）を手に片っ端から急な斜面にある森を切り開き、作物を植えた。女たちは農業を手伝い、家畜の世話をし、家事育児全般を担った。そうして何世代も生き抜いてきた。

社会でも家庭でも 今なお低い女性の地位

男と女はそうして厳しい自然環境の中で助け合って生きてきたが、残念ながら、男尊女卑の影が色濃く付き纏う。現金収入がある仕事をしているのはほぼ男性で、家庭内での権力は男性に集中している。

家庭内暴力や暴行なども絶えないということも深刻な問題だが、一見、妻を大事にしている家庭でも、妻は子どものノート一冊買うにも夫に頼んでお金をもらおうというように、家庭内での女性の地位が低いこと、そしてそれが意識されていないことも大きな問題だ。

今でも女性は、教育は受けられずとも小学校までという人が多く、識字率も低い。当然のことながら雇用機会も少ない。多くの場合、土地の名義人も大体、夫である。それら諸々のことが女性を社会的弱者にしてしまっているのだ。

立ち上がる女性たち

そのような状況をよしとしない女性たちはたくさんいる。20年以上前からインタグでは女性グループが数多く誕生した。サイザル麻を使った手工芸品を作るグループや、バナナやキャッサバを粉に加工するグループ、アロエを使ったシャンプーや石鹸を作るグループもできた。

エコツーリズムのグループもある。これらのグループは商品売って家計を助けるという意味合いが大きい。彼女たちが自身が収入を得て、支出の決定権を得るということは、家庭内での女性の地位の向上に大きく貢献した。さらに商品を持って外に売りにいく行為が、それまで家からほとんど出なかった彼女らを公共の場に連れ出した。

コーヒー生産における女性たちの役割は大きい。特に収穫の時期にはコーヒーの実を摘み、運び、洗ひ、皮を剥き、乾燥させ、選別する。こうしてさらっと文章にしてしまうと簡単な仕事のように思えるが、重労働で、コーヒー生産において決して脇役などではない。一方で AACRIは組織の高齢化が進んでおり、次世代の農業の担い手が育っていないという現実に向き合っている。

そこで女性が主体的に収入源を増やすこととコーヒー栽培の担い手を増やすことを目的として、女性の職業訓練と啓発プロジェクトが始まった。女性たちに特化したワークショップを行い、「女性たちのコーヒー」というブランドも作った。生産者が納品したコーヒーの選別などを女性たちに託すことで雇用も作ったのである。

さて、インタグコーヒー生産者協会 AACRI 自身はこのような状況に対してどうしているか。そもそも AACRI の体質も男尊女卑的だ。AACRI における登録者は大体土地の名義人である夫であり、妻は、会合などでも登録者ではないという理由で、「〇〇（夫の名）さんの妻」と呼ばれ、投票権はなく、納品したコーヒーの代金の受け取りもできないと、定款に定められている。協会と生産者は家族のようなものでお互いよく知っているにも関わらず、だ。

先日、ついに女性たちの総会も行われた。夫の「付属品」扱いである定款を見直すためだ。ある女性は言った。「女性たちは決して男性より権力を持ちたいとは思っていない。そうではなくて、自分達のことを自分達で決め、進んで行きたいだけなのだ」と。



▶ 焙煎に携わるソニア・アリアスさん(右)「女性たちのコーヒー」ブランドのラベル。このコーヒーを選ぶことが、女性たちの経済を支え、彼女たちの労働を尊重することになると書かれている。



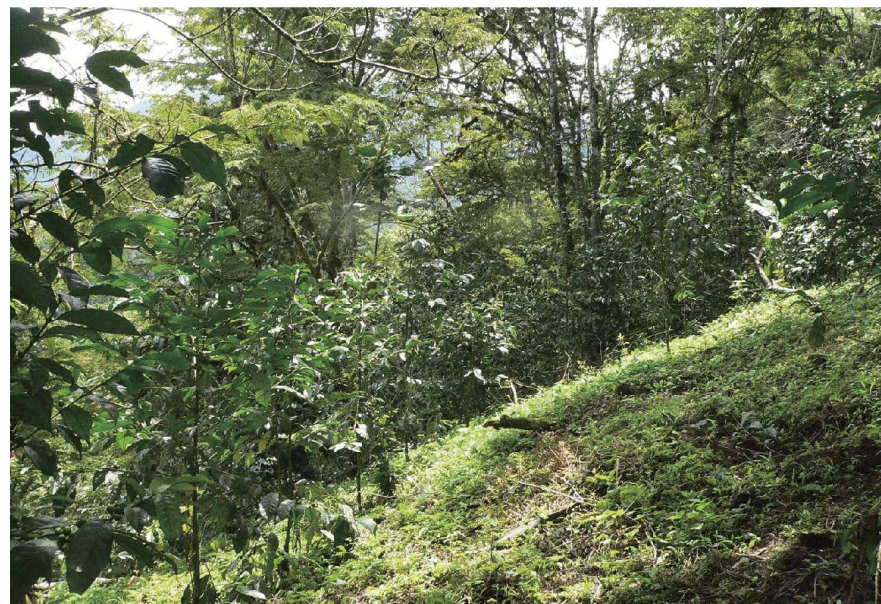
▲ トラントさんと娘さんのジェシカさん。コーヒー栽培の記録がしてあるノート。



▲ AACRIの定款を変えるために話し合う女性たち。



▲ エコツーリズムのグループ



▶ 急な斜面に植えられたコーヒーの木。3年目を迎えた。